

二種混合ワクチン接種についての説明書

(DT: ジフテリア・破傷風)

二種混合ワクチンの予防接種は、法律に基づいて受ける定期接種です。この説明書をよく読んで理解し、十分に医師から説明を受けたうえで予防接種を受けてください。

〔接種対象年齢〕

接種時点で大牟田市の住民である 11 歳以上 13 歳未満の者
＜標準的な接種年齢：11 歳～12 歳未満＞

〔接種スケジュール〕

1 回あたり 0.1ml を皮下に注射します。

1 予防する病気

(1) ジフテリア

のどについたジフテリア菌が増えて、高熱、のどの痛み、犬の遠吠えのようなせき、嘔吐などの症状が出ます。重症になると呼吸困難や神経麻痺、心筋症をおこし、命をおとすこともあります。

(2) 破傷風

傷口等から破傷風菌が体に侵入し、菌が出す毒素はさまざまな神経に作用し、筋肉の激しいけいれんや呼吸困難などをおこします。顔の筋肉が硬直して引きつったような表情になり、口が開かなくなることが特徴です。重症になると強いけいれんで呼吸ができなくなります。

2 ワクチンの有効性

ジフテリアおよび破傷風に対するワクチン（三種混合、四種混合など）を乳幼児期に反復して接種することにより、ほぼすべての人が予防するのに十分な抗体を獲得すると報告されています。これらの効果を持続させるため、二種混合ワクチンを接種します。

3 ワクチンの副反応

副反応としては、局所症状として接種部位に発赤、はれ、痛み、しこりなど、また全身症状として発熱、悪寒、頭痛、倦怠感、下痢、めまい、関節痛などがみとめられることがあります。いずれも一時的なもので、通常 2～3 日で改善します。ただし、しこりは 1～2 週間残ることがあります。極めてまれな副反応として、アナフィラキシー（接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や重いアレルギー反応のこと）があります。

4 予防接種を受ける前に

(1) 一般的注意

気にかかることやわからないことがあれば、予防接種をうける前に担当の医師に質問しましょう。予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。保護者が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

(2) 予防接種を受けることができない方

- ア. 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃ 以上の場合）
- イ. 重い急性疾患にかかっている方
- ウ. このワクチンの成分によってアナフィラキシーをおこしたことがある方
- エ. その他、かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方

(3) 予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ア. 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- イ. 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ウ. 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- エ. 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- オ. このワクチンに対してアレルギーをおこすおそれのある方

(4) 接種を受けた後の注意事項

- ア. 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- イ. 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ウ. 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、接種局所の異常反応や体調の変化を訴える場合は速やかに医師にご相談ください。
- エ. このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6日間以上の間隔をあける必要があります。
- オ. 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。
- カ. 接種当日は激しい運動は避けてください。

5 副反応が起こった場合

予防接種後、まれに副反応が起こることがあります。予防接種と同時に、ほかの病気がたまたま重なって現れることもあります。予防接種を受けた後、接種した部位が痛みや熱をもってひどく腫れたり、体調変化が現れた場合は、速やかに接種した医師（医療機関）の診察を受けてください。予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づき、国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に補償を受けることができます。

<問合せ>

大牟田市保健福祉部保健衛生課 電話:0944-41-2669